



# やまがた



※表紙の写真は撮影のためマスクを外してもらっています。

## 花卉農家

しょうご 中村 庄吾さん(上大池)

ハウスを訪ねると、いく色もの八重咲きの花がたくさん咲いていた。切り花として人気がある春の花“ランキュラス”だ。庄吾さんがランキュラスなどの花卉栽培を始めたのは7年前のこと。すぐに軌道に乗せ栽培面積を拡大、雇用も生むなど若手農業成功者のひとりだ。

「出荷最盛期の今が一番大変だが、花をプレゼントされて喜んでいる姿を見ると嬉しくなる」と、庄吾さんは語る。

ランキュラスの出荷は、12月から4月まで続く。

(2月3日 村内栽培ハウスにて)

# 働き姿



告知板

令和3年度(2021年度) 施設予約 3月12日(金)受付開始!

トレーニングセンター、ミラ・フード館、ふれあいドーム、テニスコート、小学校施設(体育館、グラウンド)の施設予約が、3月12日(金)から始まります。予約は希望日時の3ヶ月前より予約できます。予約の重複をさけるため、先着順に一人(一団体)ずつ予約を入れますので、予約希望日のメモを置いて帰る等をご遠慮ください。

●窓口予約...午前8時30分から ※ミラ・フード館のみ午前9時から

●電話予約 3月12日(金)の対応 窓口での受付を優先しますので、電話予約は午前11時からの受付とさせていただきます。

3月13日(土)以降の対応 午前8時30分から受付 ※ミラ・フード館のみ午前9時から

お問い合わせ 山形村教育委員会 ☎98-3155

鬼は〜外!

2月2日(火) 山形保育園

それぞれの園児たちが作った鬼のお面を見せ合いつこしている、何やら「どんつどん!」と窓の外から聞こえてきます。「鬼だ!」園児たちは一斉に鬼へ向かって「鬼は〜外!」と紙を丸めて見立てた豆を投げていきます。鬼もたまたま逃げのしかありません。田中はる子園長は「園児には、節分という伝統の大切さと鬼と対峙することにより自分の心の弱さに勝つことを学んでほしい」と話してくれました。

〜山形保育園の様子〜



2月3日(水) やまのご保育園

可愛い鬼に変身した年長さんたちが登場すると、びっくりして走り出す園児や歓声を上げて夢中で豆を投げる園児の姿があり、賑やかな雰囲気にも包まれました。年長さんが準備した鬼のお面は型の上に何枚も新聞紙と障子紙を貼り重ねて作ったもので、どれも表情豊かな力作揃いです。園庭では職員が鯛を焼き、園児たちと「早く元の生活に戻れますように」と、空に昇る煙に願いを込めていました。



〜やまのご保育園の様子〜

2月3日(水) 5・6年生 木祖村やぶはら高原スキー場

天気恵まれ、ほど良い雪質で、児童たちは気持ちよく安心して滑ることができました。午後は滑るスピードが心なしか速くなっていたようで、止まり方も雪をバツと飛ばしてかっこよくなっている児童も見られました。一緒に滑る友だちがいたからこそ楽しさがさらに大きくなって、やる気も増して上手になったようです。特に6年生は、卒業前に友だちと一緒に味わえたスキーで素敵な思い出を作ることができました。



スンが終了。

午後は気温も上がり、心地よい風を感じながら滑ることができ、また一つ貴重な思い出ができました。



山形小学校スキー教室

1月13日(水) 3・4年生 朝日プライムスキー場

3年生の中には初めてのスキーという児童が多く、おっかなびつくりでしたが次第になれ、リフトにも挑戦。昨年経験した4年生も緊張気味でしたが、すぐに感覚をもどしていました。丁寧なコーチの指導のおかげで、気持ちよく滑る児童も多かったようで、あつという間に午前中のレッ

山すそ

ふるさと伝承館の取壊しが始まった。昨年末、その姿を記憶に留めておきたいと『お別れ見学会』に行ってきた。すでに展示物は別の保管場所へ移動し、旧役場庁舎の面影だけが残る館内で、ふと感じた。

便利なパソコンやコピー機などなかった昭和の時代。けれど手書きの文字からは書き手の存在が身近に感じられ、心が温かくなった。「手仕事」に感じる畏敬の念はなぜだろうか▼人類は手を使うことで進化してきた生き物である。直立二足歩行に始まり、手を自由に使って火や道具を作るようになったことで大脳が発達し、言葉や文字が生まれ、文化的創造へと発展したとされる。山形村においても縄文時代の土器や養蚕が盛んだった頃の糸車が残っており、手仕事から培った叡智が今日まで繋がっていることが窺える▼機械化が進む現代において自らの五感で考え、身体を使う体験が失われてゆくのではないかと懸念する。手を使うことは、生きる力を育む。利便性よりも多くの「手」をかけて学び、働き、先人たちのようにに生きた証を残したい。

図書館からのお知らせ

\*図書館&公民館講座

「頑張りすぎないシニアの片付け術」

日時：3月6日(土)10時~12時

場所：トレーニングセンター

「ふるさと大ホール」

定員：30名

講師：藤森妙子さん

(『住まいプランニング』代表)

「お気に入りのモノ」「大切なモノ」を見つける片づけを始めませんか？長い間大切に持ち続けてきたモノと向き合いながら、理想の暮らしを描き、楽しく前向きに実践できる片付けのヒントを学びましょう♪

申し込み：山形村図書館 ☎98-3155

あなたの本との出会いをお手伝い……図書館便り

# BOOK No.51

編集=山形村図書館

**コロナ禍で苦労した今年度、「ウェブ予約」がすごかった！**

今年度はコロナ禍の影響で、図書館の本の予約がぐっと増えました。山形村図書館の本は、貸し出し中の本も棚にある本も取り置き予約ができます。いつもなら本を借りるついでにカウンターで予約される方が多いのですが、今年は「ウェブ予約」がすごかった！なんと、昨年の4倍です。

4・5月は、予約の本の受け取りを中心にしていました。この機会に図書カードのパスワードとメールアドレスを登録した方が、インターネットで

ウェブ予約比較表

	全予約数	カウンター予約数	ウェブ予約数
令和元年度	1,020	596	424
令和2年度	2,208	518	1,690

令和3年2月6日現在

YCSのニュースに注目!!

図書館の本を検索して予約してくれるようになったのです。家族で何十冊も受け取って、おうち時間を有意義に過ごした方も多かったようです。

おうちにいながら簡単に本を選んで、用意ができたらメールでお知らせ♪なんて便利！

今年はおあなたも「ウェブ予約」はじめませんか？おススメです。

山形村図書館ってこんなところ

2月9日(火)、YCSのテレビカメラが図書館にやってきました。「山形村図書館のいま」を映像でお伝えするためです。

「まだ図書館って行ったことないんだよ」「この頃行ってないけど、どんな本が増えたかな？」

「テスト勉強をしに行きたけれど、やっていけるのかな？」とい



う皆さんが来てくれるのを待っています。

4月からはYCSのニュースで、新刊本やおすすすめ本の紹介をすることになりました。ご期待ください。

おすすめ新着本紹介

『わかめ およいでそだつてどんどんふえるうみのしよくぶつ』

青木 優和 (仮説社)



みそ汁の具でおなじみの「わかめ」は、海の底にはえているときは茶色の布みたい。そのナゾに満ちた生態に迫る写真絵本です。わかめ料理のレシピ付き。

『くもとりの山のイノシシびょういん』 かこさとし (福音館書店)



病院にはいろいろな動物がやってきます。くしゃみや止まらないカマキリさん、石段から落ちたと言いつつ何やら訳ありなシカどん。かこさとしが残した物語と絵に、孫のなかじまかめいの絵を加えた7つのおはなしが楽しめます。

『赤毛証明』

光丘 真理 (くもん出版)



生まれながらの茶髪を地毛だと証明するために、生徒手帳に押された「赤毛証明」のゴム印。納得がいかないめぐは、「ふつうってなんだろう」という疑問を自由研究の課題としました。たくさんの人に出

会いながら出したためぐの結論は？『子どもをキッチンに入れよう！』

藤野 恵美 (ポプラ社)



キッチンには危険なものが多いからと、ついつい子どもを遠ざけてしまいがち。でも、子どもと過ごす時間を増やすために子どもをキッチンに入れたら、育児と家事を同時に楽しむ暮らしが待っていました。

『リアルでゆかいなごみ事典』

滝沢 秀一 (大和書房)



ゴミ清掃員としても働くお笑い芸人の、苦勞あり、笑いありのごみエッセイ。捨て方の「ごみの分類」も参考になります。ごみを出しすぎないように、買うときには使いされるか考えたり、清掃員さんに「やるね！」と言われるようなセリフのある捨て方をしたくなります。

『安全運転寿命を延ばすレッスン』

松田 秀士 (小学館)



僧侶でレーシングドライバーで自動車評論家の著者が、3つの立場から運転寿命を延ばす方法を伝えます。年をとっても安全に車の運転を続けられるような秘訣がいっぱいあります。

# コロナ禍を生きる

発生から1年以上すぎても未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス。  
今できることとできないことを見極め、皆で住みやすい社会を作っていきます。

## 新しい生活様式

昨年11月18日(木)、トレーニングセンターふるさと大ホールにて、コロナ禍での葬儀の実施方法について話し合いが行われました。これまでの葬儀は数千人規模で行われていましたが、新型コロナウイルス流行以降は、感染拡大防止の観点で縮小して実施すべきかという議論が交わされるようになりました。この話し合いでは故人への思いと新型コロナウイルス対応のバランスについて意見が交わされ、ひとまず「喪主の意向を尊重する」という結果になりました。

山形村では村内放送でご不幸について告知しており、実施の有無についてはご遺族で決めることができます。ただし急なお別れの中でいづれかを判断するのはとても難しいものです。



## 新型コロナウイルス学習会

昨年11月6日(金)、トレーニングセンターふるさと大ホールにて、公民館本館・分館役員及び区の役員を対象とした新型コロナウイルス学習会が行われました。まず感染者への差別・誹謗・中傷が発生する仕組みが説明され、その後、区ごとに分かれて意見交換が行われました。

自身・近親者・友人がいつ感染者になっても不思議でない現状で、自分だつたらどのようなケアをしてあげたい・してもらいたいかを普段から考え、有事の際には冷静に対応できるようにしたいと感じました。



## シトラスリボンプロジェクト

シトラスリボンプロジェクトとは、新型コロナウイルスに感染した方や医療従事者が、それぞれの暮らしの場所で「ただいま」「おかえり」と受け入れられる雰囲気をつくり、思いやりがある暮らしやすい社会を目指す取り組みです。長野県にもこの取り組みが広がり、山形村では役場やトレーニングセンターの受付に手作りのシトラスリボンを置いていきます。長野県のウェブサイトで県内の取り組みやリボンの作り方も公開していますのでご覧になってみてください。



村職員の名札に可愛らしいリボンが付いているのに気づいた方もいるかも知れません。これはシトラスリボンといって愛媛県の有志グループ『ちよびつと19+』により作られ、全国へ広まったものです。



長野県のウェブサイトはこちらのQRコードを読み取ってください。

## 村の新型コロナウイルス対策紹介

新型コロナウイルスの感染防止のため、山形村で行っている対策にはどんなものがあるのでしょうか。一例として役場と図書館での対策をご紹介します。

- 役場
  - 入口での自動検温機による検温・手指消毒実施、出入口の一本化
  - 窓口にパーテーション設置
  - 職員の時差出勤、こまめな除菌 など



エブック館で分散勤務を実施。現在は役場庁舎で時差出勤を実施中。

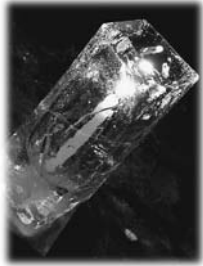


入口を正面玄関のみにし、検温を実施。

- 図書館
  - 学習室にパーテーション設置、入館不要での予約本の受け取り、空気清浄機設置 など



# 希望の光を灯す アイスクャンドル大作戦!



一晩かけて凍ったアイスクャンドルにドリルを使って穴をあけ、牛乳パックをカッターで剥がします。



▲1月19日(火)の公民館役員会で11日後にアイスクャンドル大作戦を開催する方針が決定されました。



1月30日(土)、ミラ・フード館周辺にて、公民館主催のアイスクャンドル大作戦が実施されました。約600基の氷の灯籠が幻想的な空間を演出しました。

新型コロナウイルスの流行により毎年行ってきたイベントがまいったくできませんでしたが「せめて1つでも思いに残るイベントをやりたい!」という本館役員の熱い思いによりイベントが実施されました。氷の厚みや強度が足りなかったり強風でろうそくの灯りが消えてしまったりとさまざまなアクシデントに見舞われましたが、役員総出で臨機応変に対処し、訪れた皆さんにイベントを楽しんでいただくことができました。

イベント実施にあたり、牛乳パックの提供やアイスクャンドル作成にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

## 山の神祭



1月15日(金)、山林作業安全推進祈願祭(通称、山の神祭)が執り行われました。山林業に携わる関係者の方々が安全と発展を願い参列しました。

## 小坂区防災マップ作成会議

2月14日(日)、小坂区防災マップ作成会議が小坂公民館にて、行われました。会議前日の13日午後11時8分には、福島県沖を震源とする強い地震が発生するなど、近年全国各地域で数年・数十年に1回発生するよう自然災害が毎年のように頻発しています。

今回の会議では、二ノ沢をきっかけとした土砂災害が発生した場合に大きな被害が考えられる4つの連絡班代表者を招き、災害時における避難確認などが行われました。

## トレーニングセンター研修棟・体育館内 ミラ・フード館トイレ改修工事完了しました!



ミラ・フード館2階には、オストメイトも設置されました。

昨年より行ってきた2施設のトイレ改修工事が終了しました。トレーニングセンターのトイレは2月9日(火)より利用開始となり、新しいトイレは高齢者や小さい子どもにも使いやすい、これまで以上に綺麗に使っていきたくですね。

併せて、会議に同席した松本建設事務所より、計画が進められている二ノ沢ダム建設についても説明がありました。唐沢英二区長からは「二ノ沢ダムが完成するまでは小坂公民館も土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)に近いため、災害発生時の避難場所については公民館以外の場所の検討、村の対策本部との連携ができるようにしていただくことが大事だ」と話がありました。





最近出来た新しい制度や話題となった出来事をご紹介します

～お役立ち情報シリーズ～

印!!  
この案内表示が目



協力施設	車いす優先区画	障がい者等優先区画
山形村役場	2	—
いちいの里	2	6
トレーニングセンター	3	1
ミラ・フード館	2	—
ふれあいドーム	1	—
すくすく	1	1
山形保育園	1	1

村内公共施設協力区画数の表



写真は、トレーニングセンターグラウンド南側駐車場にある駐車区画の様子

信州パーキング・パーミット制度

公共施設やお店の駐車場で車いすなどのマークが描かれた広めの区画を目にしますが、具体的にどのようなための優先区画かご存知でしょうか？ いざ説明や線引きしようとする判断に困るケースが多々あります。信州パーキング・パーミット（障がい者等用駐車場利用証）制度は移動について配慮が必要な方に利用証を発行し、優先区画を必要とするか否かを明確にすることを目指しています（県内及び同様の制度を持つ他府県でも有効です）

山形村の公共施設では21箇所が指定されており（左記表参照）、利用証の申請や問い合わせは、保健福祉センターいちいの里内の保健福祉課で行っています。必要とする方が安心して利用できるよう、皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

今年の節分は2月2日でした!

子どもの頃から、節分は2月3日だと思っていた方が多いと思いますが、今年2月2日が節分にあたり、124年ぶりに1日早くなりました。何故でしょうか？ 節分は、季節を分けるという意味を示し、立春・立夏・立秋・立冬の前日全てを言い表しますが、現在は、立春の前日だけが節分と呼ばれています。これは地球が太陽の周りをまわる周期である太陽暦の正月に近く、年の変わり目の意味合いが強いからと言われているようです。その太陽暦ですが、1年が365日ではなく、365・2422日動いています。この小数点以下の数字によりズレが生じます。そのズレを吸収するため、4年に一度の閏年がありますが、それでも吸収できないため、今年2月2日となったようです。ちなみに来年は2月3日が節分に戻ったように思えますが、2024年には閏年が訪れて1日早くなり、2025年には再び2月2日が節分となります。

ヘルプマーク制度

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が、周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成されたマークです。平成24年に東京都が考案・制定し、公共施設や交通機関で標示されはじめ、平成29年にはJISの案内図記号にも追加され、近年では全国的にも普及が進んできました。



色は赤色に白抜マーク

●ヘルプマークを身につけた方を見かけたら：身につけている方は、周辺の方に援助や配慮を必要とされている方です。席を譲ったり、お手伝いが必要か声をかけたり、非常時や災害時には安全に行動するための支援をお願いします。



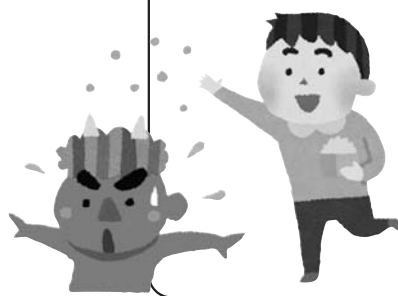
(敬称略)

おめでた(子・親)

シニラク 笑光・TIL 上大池  
さやか

おくやみ

上條 寛嗣・94歳・上大池  
横水 利喜・87歳・下竹田



# 活き生き塾 活動記録

1月26日(火) 映画観賞会

なかなか映画館で映画鑑賞もできない状況ですが、今回は入館時の検温・手指消毒・体調管理の報告、座席の間隔を十分に取り楽しみました。北野武監督『龍三と七人の子分たち』が上映されるとシリアスな状況の中にも思わず笑みが溢れる内容とクライマックスでの仲間  
の団結力を感じることができました。



2月9日(火)  
シトラスリボン作りに挑戦

活き生き塾でも「シトラスリボン」作りに挑戦しました。シトラスリボンについては4ページで詳しく触れていますのでご覧ください。今回は、45cmの紐で3つの輪を作り、中央で固く結ぶ『几帳結び』の方法を教わり、初めて挑戦する参加者の皆さんはお互いに手順を確認し合いながら、自分用のリボンを完成させました。「新型コロナウイルスの影響で人と会う機会が減ったが、楽しい時間を過ごせた」「孫にもあげたい」など感想が聞かれました。

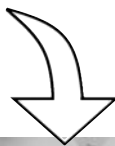


# ミニ糸車⑤

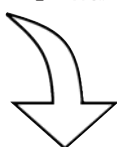
ふるさと伝承館の活動を紹介する「ミニ糸車」。第5号となる今回は、資料移動と解体工事についてご紹介します。

本年3月までに建物を解体することが決まっているふるさと伝承館。昨年末には展示・収蔵していた資料のクリーニングと仮収蔵庫への移動を済ませ、残る物品の処理を1月に終え、ついに空っぽの状態となりました。

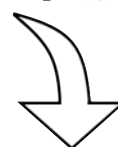
【1階展示室①】



【1階展示室②】



【2階展示室】



2月初旬、大型の重機2台が入りよいよ建物自体の取り壊しが始まりました。重機の大きな爪でふるさと伝承館の壁や柱を壊していく姿を見るのは、少し寂しい気持ちがあります。解体作業中、業者の方が貴重なものを見つけられました。ふるさと伝承館(旧役場庁舎)が建てられた際の棟札です。昭和28年当時の村長の名前などが記されたこの棟札は、村の歴史を物語る貴重な資料として大切に保存されます。

▶ 伝承館が建てられた際の棟札



# 子どもの育成にかけるコーチの絆

KIZUNA



たまにOBが顔を出してくれ  
れます



山形少年サッカークラブ・コーチのみなさん

直井正一さん(中大池)が代表を務める山形少年サッカークラブ・コーチのみなさん。子どもの育成に係るといふ難しい立場ですが、常に子どもたちファーストで取り組み、プレイ中の動き方などは、子どもが考え、気づかせるように教えています。コーチ陣はサッカーの経験者と未経験者で構成されていますが、サッカーが本当に好きな方たちばかり。子どもの成長を間近で見ている感じ、試合で活躍したときには勝ち負けにかかわらず感動を分かち合っています。少年サッカークラブには、保護者の方からコーチになられた方も居て、山形村民の人の好きもあり仲間意識や絆の強さを感じます。最近ではコロナ禍のため飲み会などの集まりができなく残念ですが、飲みニケーションの時も最後にはサッカー談義に花が咲き、子どもたちの育成について熱い語らいが続きます。

少年サッカークラブには保育園児から小学生まで加入しており、1学年1チームで編成し、年間を通して練習や試合があります。チーム主催のお楽しみ会や卒団式などは、コロナ禍のため縮小しながらですが、たまにOBが顔を見せてくれたりとワイワイ楽しくサッカーをしています。サッカーに興味のある子どもたちの加入募集中です

## 三つ子で



左から  
平林

みずき  
瑞樹さん  
さくらさん  
あいらさん

上竹田  
中2  
おうし座



「3つ子として小さく生まれたのに、サッカーや駅伝で全国大会に連れて行ってくれるほど、元気に育ってくれて嬉しく頼もしいです」と話すお母さん。3人の活躍や将来について聞いてみました。3人のこれらが楽しみですね。

中学のサッカー部で部長を任されている瑞樹さん。コロナ禍で練習時間や試合回数が少ない中、チームを一つにまとめるために頑張っています。体を動かすことが好きな瑞樹さんですが、「将来は機械を扱う仕事をしたい」と話してくれました。

歌うことが好きで合唱部に所属しているさくらさん。あいらさんと同じ女子サッカーチームで、高身長を活かしながら活躍しています。「小さい子どもと関わるのが好きなので保育士になりたい」という小学校の頃からの夢に向かって頑張っています。

吹奏楽部に所属しながら、女子サッカーのクラブチームで活躍しているあいらさん。「海の見える所で合宿が出来るよ」と聞いて本気でサッカーを始めたそうです。将来については、「何をしたいか、じっくり考えている」と教えてくれました。

## 三人三様